

## 概要版

# 多摩市街路樹よくなるプラン改定版

## テーマ

### 市民が誇る、美しいみどりの“みち”

#### 目指す姿

- どの世代も安心して気持ちよく通行できる“みち”となっている
- 美しく、清潔感のある道路のみどりによって、まちの資産価値が高まっている
- 道路のみどりが活用されることによって、地域コミュニティが活性化している



将来イメージ

## 計画期間

2019年4月～2029年3月

# 1. 街路樹の実態と課題

多摩市の街路樹の多くはニュータウン開発に伴い植栽されたもので、街路と遊歩道合わせて16,485本あります（平成30年4月時点）。年月が経ち、大径木化（太く大きくなること）や高木化（背が高くなること）が進行することで、下の表に示すような、さまざまな課題を誘発しています。

表 大径木化・高木化による課題の誘発事例

交通安全上の課題	<p><u>枝葉による交通標識等の見えづらさ</u></p>  <p>枝葉が繁茂し、交通標識等が見えづらい</p>	<p><u>枝葉が茂ることにより、街路灯の光が通りづらい</u></p>  <p>枝葉が繁茂し、街路灯の光が路面まで届きにくい</p>	<p><u>架線への接触回避のための手入れによる樹形の崩れ</u></p>  <p>架線(電線)へ枝葉が接触し、影響を及ぼす可能性がある</p>
	<p><u>根上がりによる舗装の破損</u></p>  <p>根によって舗装が浮き上がり、ひびが入る</p>	<p><u>中低木や雑草が茂ることによる見通しの低下</u></p>  <p>中低木や雑草が茂って、見通しが悪い</p>	<p><u>枝葉が茂ることによる過密化、暗がり</u></p>  <p>枝葉が茂ることにより、防犯上に問題</p>
生育上の課題	<p><u>衰弱木・枯れ木・腐朽</u></p>  <p>衰弱した木、枯れ木、幹が腐り始めた木</p>	<p><u>植樹帯の規格に合わない</u></p>  <p>根元が成長し、植樹帯の規格に合わない</p>	<p><u>周辺の緑との競合</u></p>  <p>公園など周辺の緑と競合し、街路樹が衰退</p>
	<p><u>並木全体の統一観がない</u></p>  <p>枯れ木の伐採等により並木がまばらで雑草が繁茂している</p>	<p><u>枝葉の民有地への越境</u></p>  <p>枝葉が住宅等の敷地にまで張り出している</p>	<p><u>並木景観の低下</u></p>  <p>部位を考慮せず手入れすることで並木景観が低下</p>
景観上の課題等			

## 2. 街路樹管理の方向性

現在の街路樹管理の課題や多摩市をめぐる状況、街路樹について考えられる将来を踏まえると、街路樹の管理にメリハリをつけ、健全な街路樹空間を形成していくことが、導き出される方向性であるといえます。

### 街路樹の生育・管理

- ・大径木の進行、不健全な樹木の存在  
⇒中長期的な視点で根本的な対応も必要  
更新を見据えた管理の必要性



### 多摩市の将来

- ・高齢化進行、生産人口減の見込み
- ・ニュータウン再生、健幸都市、シティセールス  
⇒イメージアップの必要性



### 方向性

**メリハリ\*をつけた管理を行い、健全な街路樹空間をつくる**  
「安全、安心・快適」「美しい景観」「持続的管理」  
「市民協働・連携」「都市のブランド力」

\* 街路樹管理における“メリハリ”

街路樹の管理の方向性や程度（頻度）を画一的なものではなく、路線、樹種の特性や沿道条件をふまえて、強弱をつけたり、種類の異なるものにする。

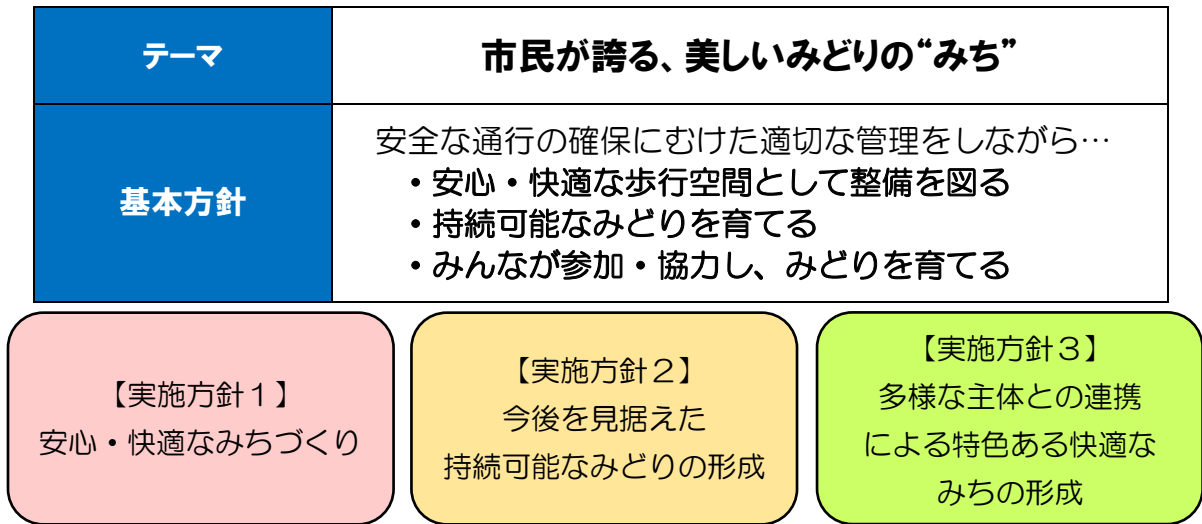
都市空間に様々な機能を提供する「みどり」を豊かで良好な状態に保持

住みたくなる、住むことに誇りを持つことのできるまちへ

**都市のブランド力、まちの資産価値の向上！**

### 3. 街路樹管理のテーマ、方針、ビジョン

多摩市のセールスポイントの一つである豊かな街路樹環境は、健全な状態に導くことで、より魅力ある街並みを形成できます。また、市民が美しいと思えるみどりであれば、自らもみどりの育成に関心を持って参加し、親しみ・愛着を持つことにつながると考え、以下に示す「テーマ・方針・ビジョン」をもって取り組んでいきます。



将来目指す姿  
～ビジョン～

安心・快適なみちづくり


- 車椅子やベビーカーが安心して通行できる
- 見通しがよくなったことで、運転者、歩行者の両方が安全に通行できる
- 夜も安心して歩くことができる




今後を見据えた持続可能なみどりの形成

- 適正な育成環境の並木が今よりも増えている
- 更新の試験施工をきっかけに、街路樹の若返り、あるいは路線にあった並木の再生がはじまっている
- 低木から地被類等への変更といった植樹帯の構成を変える取組みが始まっている
- 剪定作業によって、清潔感のある美しい景観が今よりも増えている

多様な主体との連携による特色ある快適なみちの形成

- 街路樹に関心のある市民が増えている
- 既存のアダプト活動とは異なる新たな市民参画が始められている
- みんなで街路樹の目標像を考えるようになっている

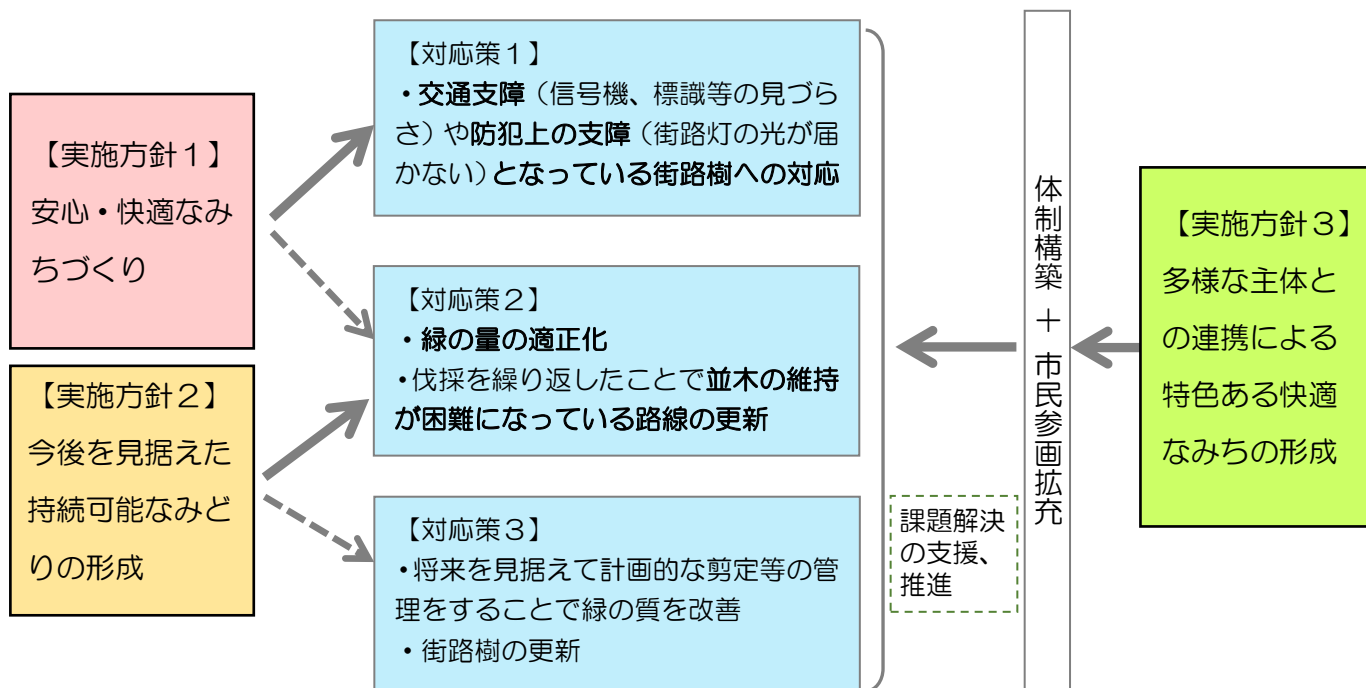


## 4. 方針の実施対応策と市民連携

実施方針1及び2の対応策として対応策1～3を実施しながら、実施方針3の実現に向けて、実施体制の構築と市民参画の拡充を進めます。

具体的な対応策の取組イメージを次のページに示します。



### 【 対応策取り組みイメージ ① 】

※大径木化した路線での更新（道路空間に適した樹種に植替え）

#### ■更新前

大径木化が進み、根上がりによって舗装・縁石を持ち上げ・街路灯の照射を遮っている。



#### ■更新後

沿道条件にあうコンパクトな樹種を選び植栽。根上がりも解消し、視認性も向上。



## 【 対応策取り組みイメージ ② 】

※並木景観が崩れた路線での更新（道路空間に適した樹種に植替え）

### ■更新前

枯れ木を多数伐採しているため、街路樹が並木になっていない状態。

並木になっていない

樹形がまちまち



すれちがいにくい

雑草が繁茂

### ■更新後

植栽条件にあった樹種を選び、並木状に植栽。単独樹化を実施し、歩道幅を確保。単独樹は地域連携による花壇整備を検討。

形が整い、  
並木として統一感



単独樹になることで  
すれちがいがやすく

花壇が整備されて  
街並みに彩り

## 【 対応策取り組みイメージ ③ 】

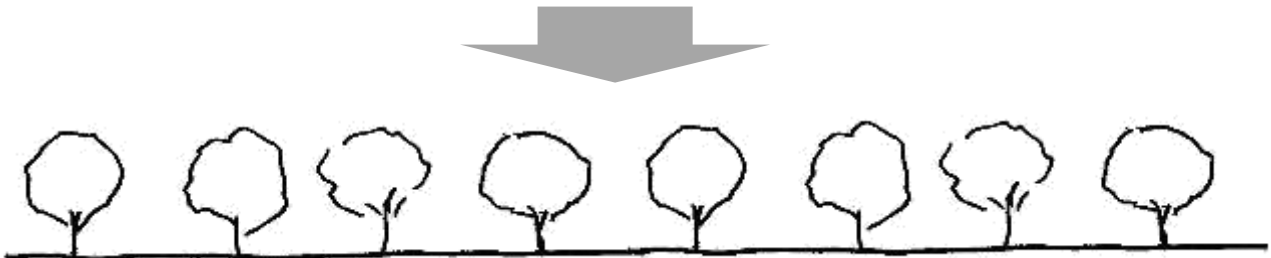
※伐採・間引き



弱っている木

傾いている木

となりの木と枝が接触、重なり合っている状態



弱っている木や傾いた木、となりの木と枝が接触している木などを中心に  
間引きを行い、街路樹の健全な生育を促す

## 5. 誰が取り組んでいくの？

～自分たちの まち をより魅力あるまちに…いっしょにはじめませんか？～

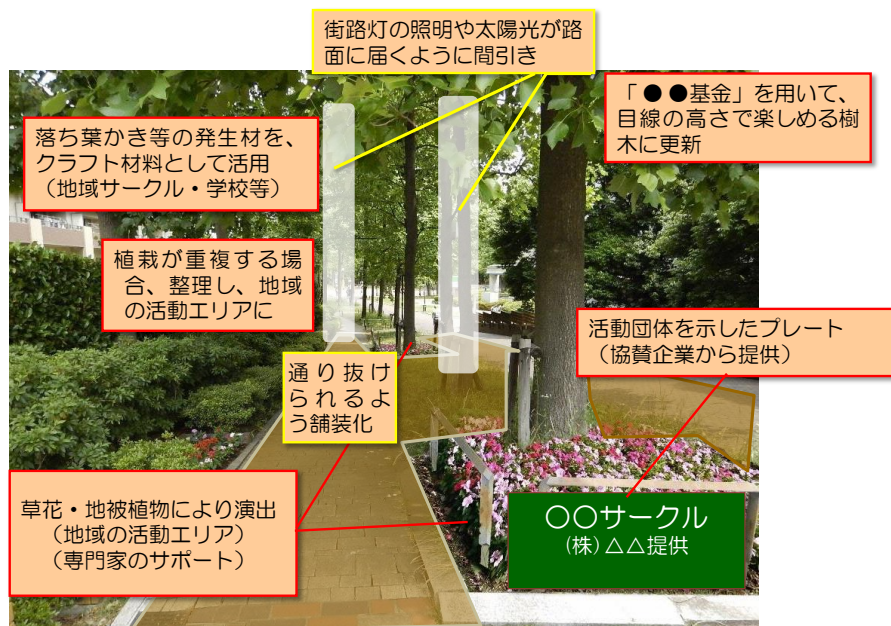
市の全域において街路樹の大径木化が進んだ現状では、行政が改善策を計画的に実施した場合でも、課題への対応には長い期間を要します。

目指す姿に到達するまでの時間を早めていくためには、今まで以上に、さまざまな視点で多様な主体と連携・協働しながら、道路のみどりの健全化を図り、快適なみちづくりを進める必要があります。

今までの枠組みを超えて、街路樹のある空間を活用する場面が増えることにより、街路樹の価値が向上し、道路環境の向上、更にはまち全体の価値向上にもつながります。



### 【多様な主体との連携・協働のイメージ】



### 【みんなで取り組む街路樹再生のイメージ】

## 6. 今後 10 年でどのように進めるの？

～改善モデル路線での試行をもとに展開、新たな財源確保や活動制度創設も視野に～

以下の3つの取り組みを同時並行で進めていきます。


### 取り組み① 改善モデル路線での試行

- 改善手法を試行する9つの改善モデル路線を設定し、改善策を整理しました。改善モデル路線等で試行的取り組みを行い、結果を踏まえ、他路線等へと展開します。

【改善モデル路線における取組みの流れ】



【改善モデル路線の例】市道 5-74 号線（落合 1 丁目 東京都埋蔵文化財センター前の道路）

樹種：クスノキ	評価	考えられる改善策
	<p>Ⅱ. 今後、大径木化が一層進み、適正な管理が困難になり、管理費用が増大</p> <ul style="list-style-type: none"><li>樹冠が広がり、一部で枯れがみられる</li><li>多摩センター駅周辺のみどりを特色づける常緑広葉樹</li><li>隣接施設の緑と競合</li><li>根元径が植樹帯の幅に迫っている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>緑量の適正化を図るための間引き</li><li>隣接施設の緑と二重になる箇所での、管理者間での調整</li><li>植替え樹種の検討や、衰弱木からの順次更新実施</li></ul>

### 取り組み② 交通支障や防犯上の問題への対応

- 従来までのやり方もふまえて、毎年、計画的、かつ、すみやかに対応を進めます。
- これまでは、街路において重点的に取り組んできましたが、遊歩道についても、改善を進めていきます。

### 取り組み③ 地域連携に向けた取り組み

- 街路樹のファンを増やす行事を実施したり、新たな市民参画の仕組み導入に向けた取り組みに努めます。

### ■取組にかかる費用・財源確保に向けた方策

街路樹はさらに成長することが考えられるため、管理費の増加が見込まれます。

沿道条件に適した若木に植え替えるなど先を見据えた取り組みによって、将来的には管理費用の低減にもつながります。

ただし、更新には多額の工事費を必要とするので、新たな財源確保の取り組みとして、寄付制度の導入や、アダプト活動のさらなる活発化・新たな市民参画制度創設の検討に努めます。

皆さんも一緒にはじめませんか？

平成 31（2019）年 3 月発行

編集・発行：多摩市 都市整備部 道路交通課

〒206-8666 多摩市関戸六丁目 12 番地 1

TEL：042-338-6864（直通）

印刷物番号

30-61